

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年12月21日

公表: 令和5年1月31日

事業所名 チャイルドウィッシュ刈谷

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	可動式のパーティションを用いて、活動内容に合わせて部屋の使い方を工夫している。支援室の死角を無くすことで安全を確保できている。	利用人数が多い日や、利用児童に体格差がある場合の、活動場所の取り方に注意する。
	2	職員の配置数は適切である	9	0	外出イベント時にはお子様の安全を考慮して、余分に職員を配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	1		事業所が3階にあるため、階段昇降の際には、職員付き添いの元、安全に留意する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	保護者様からの意見に耳を傾け、早急に改善している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	シフトに研修が組み込まれているため、受講しやすい環境が整っている。	責任者管理の元、定期的に本部による研修を受講し、職員の資質向上に努める。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	学校休業日には、ランチイベントや外出イベントなど実践的な活動プログラムを立案している。	多角的な発達支援のアプローチが出来るよう、専門的な知識を持った職員がミーティングにより計画・立案する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	週間あそびを取り入れて、毎週異なるあそびの支援を行うように工夫している。	1週目：運動療育週間 2週目：工作あそび週間 3週目：言葉あそび週間 4週目：身体あそび週間を行う。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	0	学休日には普段経験できないような支援を取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	朝礼にて、送迎、前日の児童の様子など、職員間での情報共有を徹底して行っている。	必要があれば随時情報の共有を行い、漏れないように注意を払う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	送迎時、保護者様より頂いた情報等は、口頭伝達、議事録記載にて情報共有を行っている。	議事録の内容を全職員が把握できるように工夫していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0		

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	0		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	1		コロナ禍のため、現在開催できていないが、実施に向けて、計画・立案中である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	0		
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	家庭連携を行うことにより、保護者様やお子様と向き合うことで課題を見つけている。	送迎時、家庭連携時に事業所での様子をお伝えするとともに、ご家庭、学校での様子と照らし合わせ課題について情報共有する。	

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	0		ママ会を有効活用していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	0	コロナの感染状況に合わせて、ママ会、親子イベントを開催している。	保護者様からの要望に合わせたママ会、親子イベントを立案する。 2ヶ月に1回は行うことができるように職員で話し合いを行い、定期的な開催を心掛けていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0		
	35	個人情報に十分注意している	9	0	管理を徹底している。	各自のスマートフォンで児童の写真を撮ることは個人情報流出の可能性があるので、事業所のカメラやスマートフォンで撮影していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	理解能力を把握し、伝え方に注意している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	0		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9	0	全職員がマニュアル内容を把握している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	年に2回避難訓練を行なっている。	救急バック内の備品について定期的な確認を行い、日頃から意識を高めていく。防災頭巾はあるが数が少ない。職員用のヘルメットを用意する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	全職員が虐待についての知識を持っている。	理解を深めるためにも研修に参加していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	0		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	具体的にヒヤリハットに記載し、職員間での情報共有を徹底している。	事例集を定期的に目を通して、再発防止に努める。